５年生保護者様

子どもたちの未来のために　第２号

～選べる道を増やすには～

令和２年　４月１７日
港区立赤坂小学校
校長　齋藤　恵
５年学年主任　保坂　司

伸びるのはどんな子②～生活習慣の大切さ

あいさつができること一つだけでも、大きな効果があることを前回はお伝えしました。今回は、その理由を、他の生活習慣も例に挙げて論理的にご説明しましょう。

◎カリスマ校長先生の意図

某有名私立中学校の校長先生が、入学式のときに“中学校で伸びる生徒”の条件を３つ挙げました。

①あいさつができること
②お手伝いができること
③読書が好きであること

有名私立中学校のカリスマ校長の言葉でしたので、保護者の皆さん深くうなずいたそうです。でも、この３つは小学校教師からすると、小学校で身に付けるべき、当たり前の生活習慣です。このお便りをお読みの保護者の皆さんも、有名私立中学校の入学式で話すようなことではないと思われたかもしれません。ではカリスマ校長はなぜこの３つを「成長の条件」としたのかというと…、この３つは、学力向上と深く関わっている行動だからです。同時に、難しいことであり、これらをできない生徒が多いからなのです。

この３つが生活習慣として根付いている子は…

①あいさつができる…授業中に発言したり、話し合いで自分の考えを主張できたりと自己表現力に優れる。
②お手伝いができる…状況を考え、他者のために、たとえ嫌なことでも自ら進んで取り組む。
③読書が好き　　…豊かな語彙と知識をもち、好奇心が強い。読解力に優れ、長文に進んで取り組む。

上記の下線のような特徴をもっている可能性が極めて大きいのです。カリスマ校長が中学校で伸びる生徒の条件に挙げたのは当然のことなのです。一方、中学校入学のときに言われても遅いことも事実です。

◎生活習慣の習得の難しさ

身近にいる子供たちの中に、「毎日、元気に挨拶を元気にし、進んでお手伝いをし、よく本を読む子」はどれほどいるでしょうか。２つ当てはまる子はいても、短期間ならできる子はいても、全てが当てはまり、かつ日常的にできる子は少ないことでしょう。「習慣」とは、一見当たり前で簡単そうなのだけど、実は難しいものなのです。長い時間を積み重ねて習得するものだからです。それゆえ、中学に入学してから、「あいさつをしましょう」「お手伝いをしましょう」「本を読みましょう」と指導・助言されても、すぐにはできません。幼少時や小学校低学年から毎日積み重ねていくことが必要なのです。中学生どころか、大人でもやるのは困難です。上司に「やりなさい」と言われても、すぐにはできないでしょう。それが「習慣」なのです。

①～③の３つの下線は、職場で活躍し認められることの条件にもピッタリ当てはまります。知識が豊富で、どんなことにも好奇心をもち、話術に優れ、職場のために嫌なことを進んでできる人は、どの職業でも頼りにされることでしょう。つまり、今現在の子供たちの「よい生活習慣」はそのまま中学へ、高校へ、大学へ、社会人へとつながっていくことなのです。そして、「習慣」であるので、年齢があとになればなるほど、習得は難しくなります。「子供たちの未来のために」というこのお便りの題は、決して大げさではないのです。

私たちが、あいさつや読書習慣やお手伝いを奨励しているのは、「しつけ」「マナー」としてだけではありません。よき社会の一員になるための基礎になる力が養われるからなのです。学力の向上を重視し、生活習慣の乱れに目をつむることは、結果的に学力低下につながります。次回はそれをお伝えしたいと思います。